

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の分析【第6学年】

北区立都の北学園

## 国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
<p>学習指導要領の内容のほとんどの項目で、東京都、全国の平均正答率を上回っている。中でも「B 書くこと」は全国正答率より5ポイント上回っている。また、評価の観点別に見ると、「知識・技能」は全国正答率より4ポイント上回っており、問題形式を見ると「記述式」が全国平均正答率より10ポイント上回っている。しかし、学習指導要領の内容「A 話すこと・聞くこと」は、東京都、全国とも平均正答率が60%前後で、本校は57%のため、話すこと・聞くことが平均よりも少し下回っていることが分かる。</p>	<p>問題2三の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題の平均正答率が48.2%と一番低く、また無回答率も全校に比べ4.1ポイント高かった。既習した漢字の定着を確実に行う。「目的や意に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題が、全国平均正答率を5.2ポイント下回っている。目的を意識して、伝える内容を考える力を高めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習した漢字の定着が不十分であることが結果の要因となっていると考えられる。新出漢字を学習した際に、既習漢字を復習する時間を取ることや家庭学習等で取り組ませる。</li> <li>目的や紹介をする人を意識し、伝え合う力を育成するために「伝え合い」の場を設定する。ペア、小グループ、全体と段階を踏みながら話したり、聞いたりする力を高める。</li> </ul>

## 算数

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
<p>領域においては都の平均を下回るものだった。中でも「A 数と計算」「Dデータの活用」については、都の平均正答率より5～6ポイント下回っている。観点別評価についても「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に下回っており、中でも「思考・判断・表現」は都の平均正答率を5.4ポイント下回っている。正答率度数分布の広がりが大きく、習熟度の個人差が顕著な傾向にあり、学力の二極化及び習熟の低い層がやや多いという結果になった。</p>	<p>問題番号5の円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる問題や簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる問題、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題が東京都の平均正答率よりそれぞれ9ポイント以上下回った。グラフや表の数量の読み取りや割合についての学習を確実に行う。問題文中の数値が何を表しているのかを考える機会を必ず作り、自分の考えを文章にする際、算数の言葉を使い説明できるようにすることで数学的思考力を高めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の定着が不十分であることが結果の要因になっていると考えられるので、反復練習ができるドリルやワークシートを用意して取り組ませ、基礎基本の定着を図るようにする。</li> <li>考え方を比較検討する際の視点を示すようにし、どの解き方がよりよいのかを話せるようにする。</li> <li>縦軸、横軸、一目盛りが表す量を確認し、読み取りを行う。また、算数だけでなく、総合的な学習の時間でも調べたことを表す際、文章だけでなく表やグラフで表す例を示す。グラフや表で表すことのよさを児童が感じられるよう授業を組み立てる。</li> <li>記述形式の問題は数値の意味を明確にし、授業で自分の考えを文章や図、表等を使って書き表す時間をしっかりとることができるよう、授業の計画を立てる。</li> </ul>